

| | |
|---|---|
| 解 | 日 |
| 題 | 記 |
| 目 | 書 |
| 録 | 簡 |
| | 集 |

第
2
期

凡 例

1. 本書の内容

本書は、明治以降に活躍した日本人による日記および書簡集を集めた解題書誌である。一部、日本と関わりの深い外国人の図書も含めた。

2. 収録対象

2021年10月までに刊行された作家、芸術家、政治家、思想家、学者など772人の日記・書簡集1,927点を収録した。

3. 構成・排列

- 1) 個人による日記・書簡集については、その筆者名を見出しとし、姓の五十音順→名の五十音順に排列した。
- 2) 同一見出しのもとでの図書の排列は、刊行年順とした。

4. 記載事項

1) 人物データ

人名表記／人名よみ・原綴／生没年／プロフィール

2) 図書データ

書名／副書名・巻次／各巻書名／各巻副書名／各巻巻次／著者表示／版表示／出版地*／出版者／出版年月／ページ数または冊数／大きさ／叢書名／叢書番号／副叢書名／副叢書番号／叢書責任者表示／注記／定価(刊行時)／ISBN(㊦で表示)／NDC(㊮で表示)／内容

* 出版地が東京の場合は省略した。

5. 書名索引

各図書を書名の五十音順で排列し、人名見出しを補記して掲載ページを示した。

目次

【あ】

| | | | |
|-----------|----|----------|----|
| 愛新覚羅 溥傑・浩 | 1 | 池田 謙齋 | 34 |
| 会津 八一 | 1 | 池田 満寿夫 | 35 |
| 青柳 いづみこ | 3 | 池波 正太郎 | 36 |
| 阿川 弘之 | 3 | 池辺 三山 | 36 |
| 芥川 龍之介 | 4 | 伊沢 多喜男 | 37 |
| 朝海 浩一郎 | 9 | いしい しんじ | 38 |
| 浅川 巧 | 10 | 石井 鶴三 | 39 |
| 芦田 均 | 10 | 石井 睦美 | 40 |
| 麻生 太吉 | 11 | 石井 露月 | 40 |
| 跡見 花蹊 | 13 | 石川 啄木 | 41 |
| 安部 公房 | 14 | 石川 達三 | 43 |
| 阿部 次郎 | 18 | 石田 光治 | 43 |
| 鮎川 信夫 | 19 | 石橋 湛山 | 44 |
| 新井 奥達 | 20 | 石原 裕次郎 | 45 |
| 荒木 経惟 | 21 | 石原 吉郎 | 46 |
| 有島 生馬 | 22 | 石牟礼 道子 | 46 |
| 有島 武郎 | 23 | 泉 鏡花 | 48 |
| 有栖川宮 熾仁 | 26 | 磯部 浅一 | 49 |
| 有栖川宮 熾仁 | 27 | 板倉 鼎・須美子 | 49 |
| 有馬 頼寧 | 28 | 伊丹 公子 | 50 |
| 有元 利夫 | 29 | 市川 房枝 | 50 |
| 安東 次男 | 30 | 一丸 章 | 51 |
| 飯田 龍太 | 30 | 市丸 利之助 | 51 |
| 飯野 喜四郎 | 31 | 伊藤 圭介 | 52 |
| 五十嵐 智 | 31 | 伊東 四朗 | 52 |
| 生田 春月 | 32 | 伊藤 整 | 52 |
| 生田 長江 | 32 | 伊藤 晴雨 | 54 |
| 井口 省吾 | 33 | 伊藤 直純 | 55 |
| 池田 晶子 | 34 | 伊藤 野枝 | 55 |
| | | 伊藤 初代 | 58 |
| | | 稲垣 足穂 | 59 |
| | | 犬養 道子 | 61 |
| | | 井上 幾太郎 | 61 |

目次

おか

| | | | |
|----------|----|--------|-----|
| 井上 円了 | 61 | 宇野 邦一 | 91 |
| 井上 毅 | 63 | 宇野 浩二 | 92 |
| 井上 多喜三郎 | 63 | 宇野 千代 | 93 |
| 井上 太郎 | 64 | 梅原 猛 | 93 |
| 井上 哲次郎 | 64 | 梅原 龍三郎 | 94 |
| 井上 ひさし | 64 | 梅若 実 | 95 |
| 井上 光晴 | 65 | 浦口 真左 | 96 |
| 井上 靖 | 66 | 卜部 亮吾 | 96 |
| 井上 洋治 | 67 | 海野 十三 | 97 |
| 井上 陽水 | 67 | 江口 きち | 98 |
| 伊庭 八郎 | 67 | 江国 滋 | 99 |
| 茨木 のり子 | 68 | 江藤 淳 | 99 |
| 井深 梶之助 | 68 | 江戸川 乱歩 | 99 |
| 井伏 鱒二 | 69 | 榎本 武揚 | 101 |
| 遠星 北斗 | 74 | 遠藤 周作 | 102 |
| 今井 澄 | 74 | 小穴 隆一 | 106 |
| 今井 素牛 | 75 | 大岡 昇平 | 107 |
| 今福 龍太 | 75 | 大岡 信 | 108 |
| 今村 明恒 | 75 | 大川 周明 | 109 |
| 今村 力三郎 | 76 | 大久保 武雄 | 110 |
| 岩倉 具視 | 77 | 大隈 重信 | 111 |
| 岩崎 革也 | 77 | 大島 みち子 | 113 |
| 岩崎 小弥太 | 78 | 大杉 栄 | 114 |
| いわさき ちひろ | 79 | 太田 静子 | 116 |
| 岩波 茂雄 | 79 | 太田 水穂 | 116 |
| 巖谷 一六 | 80 | 大塚 甲山 | 117 |
| 巖谷 小波 | 80 | 大槻 節子 | 117 |
| 宇江 敏勝 | 81 | 大手 拓次 | 118 |
| 植草 甚一 | 81 | 大鳥 圭介 | 118 |
| 上野 壮夫 | 82 | 大西 巨人 | 118 |
| 上野 直昭 | 82 | 大野 一雄 | 119 |
| 上原 勇作 | 83 | 大庭 二郎 | 120 |
| 上前 智祐 | 83 | 大庭 みな子 | 120 |
| 植村 直己 | 84 | 大橋 巨泉 | 122 |
| 宇佐見 英治 | 84 | 大平 正芳 | 122 |
| 内田 百閒 | 85 | 大町 桂月 | 123 |
| 内田 義彦 | 89 | 大村 主計 | 123 |
| 内田 魯庵 | 89 | 大森 俊克 | 123 |
| 宇都宮 太郎 | 90 | 大山 のぶ代 | 124 |
| 内海 忠司 | 91 | 岡 鹿之助 | 124 |

愛新覚羅 溥傑・浩

あいしんかくら・ふけつ ひろ

《1907～1994（溥傑）, 1914～1987（浩）》

（溥傑）旧満州国皇帝・溥儀の実弟。日満親善の名の下、嵯峨侯爵家令嬢・浩と結婚。第二次大戦後、戦犯としてソ連に5年、中国に9年抑留。1960年特赦となり、のち中国全国人民代表大会（全人代）上海市代表、全人代常務委員などを歴任。日中友好にも積極的に活躍し、書家としても有名。（浩）清朝最後の皇帝・愛新覚羅溥儀の実弟・溥傑の妻。元侯爵嵯峨実勝の長女。1937年（昭和12年）国策としての「日満親善」の下、溥傑と結婚。太平洋戦争終結で満洲国が崩壊し、中国各地を逃避行した末、'47年日本に引き揚げた。'61年特赦となった夫と中国で16年ぶりに再会し、「日中親善に尽くし中国に骨を埋める」覚悟で北京に移り住む。著書に自伝『流転の王妃』がある。

『流転の王妃愛新覚羅溥傑・浩愛の書簡』

福永媽生著 文藝春秋 2011.10
381p 20cm 〈年譜あり〉1600円

①978-4-16-374250-2 ②289.2

【目次】第1章 「日満親善」結婚の真相、第2章 敗戦の満州を「流転」、第3章 ユウキラモッテ、マッテイルノデスヨ、第4章 文通一周恩来総理の縁、第5章 慧生、天城山に死す、第6章 十五年遅れの「戦後」へ、第7章 第二の新婚生活、文化大革命の足音、第8章 嫁ぐ日一新たな家族の絆、第9章 念願の日中国交正常化、第10章 最愛の妻の病に、第11章 流転の王妃、その最期

【書簡】 浩と溥傑、15年間にわたって交わした300通の手紙をもとに、満洲国と日本の政略結婚から真実の夫婦愛へと変わっていく様を次女である著者が語る。ベスト

セラー『流転の王妃』の後日譚。溥傑から娘達へ送られた手紙も収録されている。

【期間】 1945年頃～1992年

【解説】 福永媽生（おわりに）

【付録】 愛新覚羅家・嵯峨家の系図、年譜

会津 八一

あいず・やいち

《1881～1956》

大正～昭和期の歌人、美術家、書家。大正13年第1歌集『南京新唱』を出版。東洋美術史を研究し、昭和6年母校早大の教授に就任。20年新潟に帰郷し、『寒灯集』などを刊行。26年『会津八一全歌集』で読売文学賞を受賞。書家としても優れ、文化人として幅広く活躍した。

『会津八一と信州』 新潟市会津八一記念館監修（松本）郷土出版社 1999.1
178p 26cm 2400円 ①4-87663-431-9

【目次】 作品編（信州ゆかりの会津八一の書、信州の会津八一遺墨集、会津八一の書簡）、会津八一の書について、会津八一と信州（会津八一の足跡、信州と会津八一、会津八一と小林一茶ほか）

【書簡】 会津八一の書簡 会津八一が早稲田大学の頃から親友の伊達俊充や窪田空穂、上條録郎、吉池進などに書き送った書簡19通を写真で収録。

【期間】 明治39年7月31日～昭和28年9月8日

【解説】 植田重雄（「会津八一の全貌を知るために」）、小柳マサ（「刊行にあたって」）

【付録】 会津八一略年譜、収録図

版一覧

『雁魚來往 1』 會津八一、濱谷浩、川喜田半泥子、小杉放庵〔著〕、會津八一雁魚來往研究会、會津八一記念館編（新潟）新潟市會津八一記念館 2013.3 118p 30cm 〈部分タイトル：濱谷浩・川喜田半泥子・小杉放庵と會津八一との往来書簡、複製を含む〉◎911.162

【書簡】 写真家の濱谷浩、芸術家の川喜田半泥子、日本画家の小杉放庵と會津八一との往来書簡。會津八一記念館に所蔵されている會津宛の来信書簡は、7800通以上が確認されているが、3氏については書簡内容が充実していることなどから収録。1では、會津濱谷間132通、會津川喜田間76通、會津小杉間64通を収録。
【期間】 昭和15年～昭和31年
【解説】 神林恒道（序言）

『雁魚來往 2』 會津八一、丹呉康平・協平、山田正平、中田瑞穂〔著〕、雁魚來往研究会、會津八一記念館編（新潟）新潟市會津八一記念館 2014.3 118p 30cm 〈部分タイトル、丹呉康平・協平、山田正平、中田瑞穂と會津八一の往来書簡、複製を含む〉◎911.162

【書簡】 丹呉康平・協平親子、篆刻家の山田正平、外科医で俳人の中田瑞穂と會津八一の往来書簡218通を収録。2では會津丹呉親子間89通、會津山田間57通、會津中田間46通が収録されている。
【期間】 大正2年～昭和31年

『雁魚來往 3』 會津八一、料治熊太、奥田勝、亀井勝一郎・斐子〔著〕、雁魚來往研究会、會津八一記念館編（新潟）新潟市會津八一記念館 2015.5 128p 30cm 〈部分タイトル、料治熊太、奥田勝、亀井勝一郎・斐子と會津八

一の往来書簡〉◎911.162

【書簡】 文筆家の料治熊太、彫刻家の奥田勝、亀井勝一郎・斐子と會津八一の往来書簡を収録。3では、會津料治間114通、會津奥田間80通、會津亀井夫妻間30通を収録。
【期間】 大正14年～昭和31年

『雁魚來往 4』 雁魚來往研究会、會津八一記念館編 會津八一、小林正樹、小川晴暘・光暘、三浦寅吉、入江泰吉、土門拳著（新潟）新潟市會津八一記念館 2016.6 129p 30cm 〈部分タイトル、小林正樹、小川晴暘・光暘、三浦寅吉、入江泰吉、土門拳と會津八一の往来書簡〉◎911.162

【書簡】 映画監督の小林正樹、小川晴暘・光暘、三浦寅吉、入江泰吉、土門拳の写真家たちと會津八一の往来書簡。會津小林間54通、會津小川親子間81通、三浦11通、會津入江間5通、土門4通を収録。
【期間】 大正12年～昭和31年

『雁魚來往 5』 雁魚來往研究会、會津八一記念館編（新潟）新潟市會津八一記念館 2017.10 173p 30cm 〈部分タイトル、養徳社・四季書房・中央公論社と會津八一の往来書簡〉◎911.162

【書簡】 養徳社・四季書房・中央公論社の関係者と會津八一の往来書簡。養徳社の生駒藤雄らとの書簡は58通、四季書房の武田繁太郎・山田博信らとの書簡は63通、中央公論社の松下英磨らとの書簡が184通収録。
【期間】 昭和14年～昭和31年

『雁魚來往 6』 雁魚來往研究会、會津八一記念館編（新潟）新潟市會津八一記念館 2018.6 109p 30cm 〈部分タイトル、中村屋の人々（相馬愛蔵・黒光・安雄、小泉三一郎）と會津八一の往

来書簡〉◎911.162

【書簡】 中村屋の人々（相馬愛蔵・黒光・安雄、小泉三一郎）と會津八一の往来書簡。相馬愛蔵書簡2通、黒光書簡46通、安雄書簡88通、小泉書簡36通、會津書簡58通を収録。
【期間】 昭和20年～昭和31年

『雁魚來往 7』 雁魚來往研究会、會津八一記念館編（新潟）新潟市會津八一記念館 2019.8 106p 30cm 〈部分タイトル、會津家の人々と會津八一の往来書簡〉◎911.162

【書簡】 會津家の人々と會津八一の往来書簡。父政次郎宛1通、母イク宛3通、兄友一宛7通、甥泰三宛11通、また家族親族からの手紙は20通あり、合計45通を収録。また、妹の庸・政隆一家との186通も収録。
【期間】 明治35年～昭和31年
【付録】 會津家の系図

『雁魚來往 8』 雁魚來往研究会、會津八一記念館編（新潟）新潟市會津八一記念館 2020.8 107p 30cm 〈部分タイトル、有恒学舎の諸氏・相馬御風と會津八一の往来書簡〉◎911.162

【書簡】 有恒学舎の諸氏・相馬御風と會津八一の往来書簡。有恒学舎の諸氏との書簡は87通を収録、増村朴斎、山田直宛の書簡、内山義文、田中忠太らの来信書簡が収録されている。また、會津相馬間では73通が収録されている。
【期間】 明治40年～昭和31年

青柳 いづみこ

あおやぎ・いづみこ

《1950～》

ピアニスト、エッセイスト。大阪音楽大学音楽学部器楽学科教授。祖父はフランス文学者の青柳瑞穂。著書に『ハカセ記念日のコンサート』『ドビュッシー＝想念のエクトプラズム』『音楽と文学の対位法』など。アルバムに『青柳いづみこドビュッシー・リサイタル』『天使のピアノ』『ロマンティック・ドビュッシー』などがある。

『青柳いづみこのMERDE！ 日記』

青柳いづみこ著 東京創元社 2015.3 423p 19cm 2500円 ①978-4-488-02745-2 ◎762.1

【目次】 ホームページ立ち上げに向けて、新著を手にして、女の水、男の水、ステージ衣装、新阿佐ヶ谷会、二十五人のファミ・ファタルたち、新人演奏会、海辺の宿、生・赤川次郎を見た！、竹島悠紀子さんのこと〔ほか〕

【日記】 ピアニストで文筆家の青柳いづみ子が綴った9年間の日記。旅行、音楽祭、コンクールのことから、作家や食べ物のことなど日々のできごとについて綴られている。

【期間】 2001年8月～2009年7月 23日

【解説】 あとがき

阿川 弘之

あがわ・ひろゆき

《1920～2015》

昭和・平成期の小説家。兵科予備学生として海軍に入隊し、中国で敗戦を迎える。戦後、志賀直哉に師事。読売文

学賞を受賞した『春の城』や、『雲の墓標』で作家としての地位を確立。自らの戦争体験を文学の土壌とし、軍人の伝記なども手掛けた。他の作品に『暗い波濤』『山本五十六』『井上成美』など。平成11年文化勲章受章。

『阿川弘之全集 第18巻 エッセイ3』

阿川弘之著 新潮社 2007.1 573p
19cm 4600円 ①978-4-10-643428-0

【目次】鎌倉・横浜・ホノルル、一軍人の死、翔んでる中国、志賀直哉夫人の死、あくび指南書、卵を売る歌人、崖の上のピアニスト、風々録、しくしくししきしけれ、青い眼の長門艦長〔ほか〕

【書簡】丹羽文雄氏への質問状 阿川弘之から主に丹羽文雄宛に書いて発表したもの。丹羽が『月刊カドカワ』で発表した文章に阿川が反論。

【解説】平岩弓枝・阿川弘之(対談)

【付録】初出と初収録

『阿川弘之全集 第19巻 エッセイ4』

阿川弘之著 新潮社 2007.2 584p
21cm 4600円 ①978-4-10-643429-7

【目次】菊池寛と志賀直哉、娘の学校、爺いが新年の愚痴、奥能登紀行、ハミリ映画の歌右衛門丈、吉行淳之介あて書簡、眼ごごと、最晩年の谷崎潤一郎、兼好式部の縁つづき、追懐 淳之介との四十年〔ほか〕

【書簡】吉行淳之介あて書簡 阿川弘之から吉行淳之介宛書簡1通収録。本のお礼を兼ねた私信。

【期間】平成6年4月10日

【解説】細川護貞・阿川弘之(対談)

【付録】初出と初収録

芥川 龍之介

あくたがわ・りゅうのすけ

〔1892～1927〕

大正時代の小説家。東京帝大在学中、久米正雄、菊池寛らと第3～4次「新思潮」を創刊。大正5年発表の「鼻」を発表。「羅生門」「芋粥」「奉教人の死」などで代表的作家となる。神経衰弱をやみ、「或阿呆の一生」「歯車」ののちに昭和2年7月24日自殺。死後芥川賞が設けられた。作品はほかに「玄鶴山房」「河童」など。

『芥川龍之介全集 第15巻 歯車 西方の人』

芥川龍之介著 岩波書店
1997.1 410p 19cm 3100円 ①4-00-091985-7

【目次】本所両国、歯車、晩春売文日記、「我が日我が夢」の序、二人の紅毛画家、近詠、女仙、素描三題、古千屋、しるこ〔ほか〕

【日記】晩春売文日記 「東京日日新聞」夕刊一面の連載読物「大東京繁昌記」の挿絵を芥川が描くに到ることなどを綴る。

【期間】昭和2年4月30日～5月5日

【解説】浅野洋(注解)、石割透(後記)

『芥川龍之介全集 第16巻 或阿呆の一生 対談・座談』

芥川龍之介著 岩波書店 1997.2 363p 19cm 3100円 ①4-00-091986-5

【目次】或旧友へ送る手記、問中間答、十本の針、小説作法十則、機関車を見ながら、或阿呆の一生、侏儒の言葉(遺稿)、「侏儒の言葉」の序、対談・座談(芥川龍之介氏縦横談、女性改造談話会、新潮合評会(一)、家庭に於ける文芸書の選択に就いて、怪談会、新潮合評会(二)、新潮合評会(三)、婦女界批判会、演劇新潮談話会、新潮合評会(五)、

芥川龍之介氏との一時間、新潮合評会(六)、女?、文章論、新潮合評会(七)、新潮合評会(八)、徳富蘇峰氏座談会、堺利彦・長谷川如是閑座談会、新聞記者と文芸家との会談記、柳田国男・尾佐竹猛座談会、芸術小説の将来に就いて語る)

【書簡】或旧友へ送る手記 芥川龍之介が久米正雄に託した遺書。古今東西の遺書を年齢別、性別に分けて特徴をとらえ、精神医学的に分析していく。

【期間】昭和2年

【解説】奥野政元(注解)、海老井英次(後記)

『芥川龍之介全集 第22巻 未定稿』

芥川龍之介著 岩波書店 1997.10
626p 19cm 3600円 ①4-00-091992-X

【目次】暁、悪魔の会話(仮)、灰汁をたたへた空の下(仮)、アナトオル・フランス危篤(仮)、兄と妹(仮)、雨蛙(仮)、尼と地藏、或女の一生、或画学生の手紙、或画家の話(仮)〔ほか〕

【書簡】遺書 芥川龍之介による遺書を収録。400字詰め用紙に記され、旧全集では文末に「未完」「大正5年頃」とある。

【期間】大正5年頃

【解説】石割透(後記)

『芥川龍之介全集 第23巻 日録・講演メモ・遺書・ノート・手帳・詩歌 未定稿』

芥川龍之介著 岩波書店
1998.1 654p 19cm 3600円 ①4-00-091993-8

【目次】日録(我鬼窟日録、澄江堂日録、軽井沢の一日(仮))、講演メモ(小説の読み方、短篇作家としてのボオ(仮)、山梨夏期大学講義(仮)ほか)、遺書、ノート(椒園志異、椒園志異を含むノート、細木香以ノート(仮)ほか)、手帳、詩歌未定稿

【日記】1 我鬼窟日録 日々のできごとを簡潔に綴る。菊池寛や谷崎潤

一郎との交流や「愁人」と称した人妻秀しげ子との関係などの記述があり、芥川の動向が分かる。

【期間】大正8年5月25日～10月1日

【解説】海老井英次(後記)、石割透(後記)

2 澄江堂日録 日々のできごとを簡潔に綴る。俳句を作ったり「田端人」「澄江堂雑詩」の原稿を出版社に送ったことなどが分かる。

【期間】1925年2月4日～2月17日

【解説】海老井英次(後記)、石割透(後記)

【書簡】遺書 芥川龍之介による妻子宛の遺書を収録。

【期間】昭和2年7月

【解説】海老井英次(後記)、石割透(後記)

『芥川龍之介全集 第24巻 補遺・年譜・単行本書誌 他』

芥川龍之介著 岩波書店 1998.3 356、146p 19cm
3600円 ①4-00-091994-6

【目次】補遺(御霊前へ、連夜句座、雑咏、「日高川」「赤松」など、芥川氏病床慰藉句会席上〔ほか〕、注解、年譜、単行本書誌、後記

【書簡】芥川龍之介による書簡3通を収録。

【期間】大正10年5月8日～大正14年9月26日

【解説】石割透(注解)、海老井英次(後記)

【索引】人名索引、引用作品索引、俳句索引、短歌索引、絵目索引

【付録】年譜、単行本書誌

『キッスキッスキッス』 渡辺淳一著
小学館 2002.10 371p 20cm 1500円 ①4-09-379134-1 ⑨915.6

【目次】島村抱月から松井須磨子への手紙、平塚らいてうから奥村博への手紙、竹久夢二から笠井彦乃への手紙、柳原白蓮から宮崎

【あ】

- 愛を想う(芥川龍之介).....6
 愛を想う(有島武郎).....24
 愛を想う(石川啄木).....41
 愛を想う(伊藤整).....53
 愛を想う(伊藤野枝).....57
 愛を想う(宇野千代).....93
 愛を想う(大杉栄).....114
 愛を想う(岡本一平).....130
 愛を想う(岡本かの子).....131
 愛を想う(川端康成).....180
 愛を想う(北原白秋).....192
 愛を想う(国木田独步).....213
 愛を想う(幸徳秋水).....234
 愛を想う(小林多喜二).....244
 愛を想う(斎藤茂吉).....257
 愛を想う(坂口安吾).....263
 愛を想う(佐藤春夫).....277
 愛を想う(島尾敏雄).....290
 愛を想う(島尾ミホ).....292
 愛を想う(島崎藤村).....294
 愛を想う(島村抱月).....296
 愛を想う(素木しづ).....300
 愛を想う(高村光太郎).....333
 愛を想う(高村智恵子).....335
 愛を想う(竹久夢二).....343
 愛を想う(太宰治).....347
 愛を想う(立原道造).....353
 愛を想う(谷川徹三).....358
 愛を想う(谷崎潤一郎).....360
 愛を想う(谷崎松子).....366
 愛を想う(田宮虎彦).....371
 愛を想う(壺井栄).....381
 愛を想う(壺井繁治).....382
 愛を想う(寺山修司).....391
 愛を想う(徳富蘆花).....404
 愛を想う(永井荷風).....409
 愛を想う(中野重治).....422
 愛を想う(中原中也).....426
 愛を想う(夏目漱石).....431
 愛を想う(林芙美子).....467
 愛を想う(樋口一葉).....473
 愛を想う(堀辰雄).....505
 愛を想う(松井須磨子).....513
 愛を想う(三浦綾子).....521
 愛を想う(宮城まり子).....540
 愛を想う(宮沢賢治).....541
 愛を想う(森鷗外).....563
 愛を想う(矢田津世子).....574
 愛を想う(横光利一).....594
 愛を想う(吉行淳之介).....609
 愛を想う(若山牧水).....612
 会津八一と信州(会津八一).....1
 愛蔵版 ザ・一葉(樋口一葉).....473
 愛と苦悩の手紙 改訂(太宰治).....346
 愛と苦悩の手紙(太宰治).....349
 愛と死を見つめる対話(曾野綾子).....319
 愛と至誠に生きる(吉岡弥生).....601
 愛の手紙 新装版(芥川龍之介).....9
 愛の手紙 新装版(有島武郎).....26
 愛の手紙 新装版(池辺三山).....37
 愛の手紙 新装版(石川啄木).....43
 愛の手紙 新装版(大町桂月).....123
 愛の手紙 新装版(岡本かの子).....132
 愛の手紙 新装版(加藤道夫).....162
 愛の手紙 新装版(川口松太郎).....175
 愛の手紙 新装版(北村透谷).....192
 愛の手紙 新装版(斎藤茂吉).....257
 愛の手紙 新装版(里見弴).....279
 愛の手紙 新装版(島木赤彦).....293
 愛の手紙 新装版(島崎藤村).....295
 愛の手紙 新装版(高見順).....332
 愛の手紙 新装版(太宰治).....350
 愛の手紙 新装版(立原道造).....355

日記書簡集解題目録 第2期

2022年1月25日 第1刷発行

発行者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社平河工業社

© Nichigai Associates, Inc. 2022

不許複製・禁無断転載

<落丁・乱丁本はお取り替えます>

(中性紙三菱クレームエレガ使用)

ISBN978-4-8169-2906-9

Printed in Japan, 2022

本書はデジタルデータでご利用いただくことができます。詳細はお問い合わせください。